



全難聴便り

発行：事務局 〒162-0066
東京都新宿区市谷台町14-5 MSビル市ヶ谷台1F
編集：全難聴事務局
電話：03(3225)5600
FAX：03(3354)0046
URL：<http://www.zennancho.or.jp>
E-Mail：zennacho@zennancho.or.jp

広島県の状況（報告）

先月号でお伝えした大雨による広島県内の被害について広島県協会からの報告が全難聴事務局にありました。

広島市協会の調査では、数名の会員の方のご自宅が浸水・土砂被害で避難していたが、現在のご自宅に戻ったとのこと。現在ボランティアの支援を受け復旧作業中です。

この他に、避難所に高齢難聴者がいたとの情報があります。この方は地域協会会員ではありませんが支援が必要です。

情報は、広島県、広島市の障害福祉担当者に伝えられました。

広島県の伊達事務局長より以下のメールをいただいています。

国(関係各所)に対しては、迅速に要望書をご提出していただきまして、本当にありがとうございました。(中略)聴覚障害者が音声情報から取り残されないように、今回の災害を教訓にして、平成28年に設置される聴覚障害者情報提供施設が聴覚障害者に対しての危機管理、災害支援、ネットワークの構築など整備された施設となるように、より一層関係機関に訴えていきたいと思えます。

今後とも、ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

広島県難聴者・中途失聴者団体連合会
事務局長 伊達 元一郎

聴覚障害の認定方法に関する検討会（9月2日）

厚生労働省の数ある検討会の中で、聴覚障害の認定方法に関するものが行われております。



意見を述べる新谷理事長

厚生労働省は、佐村河内氏事件以来、詐聴（きこえの程度を故意に良くまたは悪くみせかける行為）をとにかく防ぐために認定方法を見直すという姿勢で、この検討会もその対応についての議論を厚労省担当者は期待していたと思われます。

当事者団体は、障害者の負担を増やすべきではなく、そもそも認定基準の見直しをすべきという意見を出しました。(日盲連、全日ろう連、盲ろう者協会、全難聴の4団体による要望書：3月26日付)

全難聴は、この検討会開催に先立ち、招集される専門

家の構成員に対して、「詐聴を前提とした見直し論議に反対する意見書」を個別に送付しました。

その成果があったのか、第1回の議事録によると、この厚労省方針に対して構成員から異論が出されました。

今回第2回の検討会では、当事者団体からのヒアリングが行われ、全日ろう連、全国盲ろう者協会、全難聴の三団体からの意見を聞く機会がもうけられました。

全難聴から新谷理事長が発言者として参加し、従前からの主張である「WHOの基準に沿った聴力障害の範囲拡大が急務」という点を強調し、発言しました。

以下発言要旨です。

- 世界保健機関（WHO）の発表する全人口に対する聴覚障害者の割合に対し、日本の手帳保有者数が極端に低いのは、純音聴力検査レベルの違いに起因している。
- 日本の障害等級の区分が「労働能力喪失率」に基づくものであり、生活の質（QOL）の観点から見なおした福祉サービスに着手すべきである。
- 障害認定は、聴力検査と語音明瞭度にて判定すべきだが、対応可能な認定医の数が限られているため、受診者の通院、待機等負担について配慮すべきである。また早期発見、早期対応されるべき難聴児童生徒への対策が必要である。

新谷理事長の他に、盲ろう者協会から庵氏、全日ろう連から小中副理事長が発言しましたが、詐聴をどう防ぐかと身構える厚労省と、障害申請者に過重の負担をかけるべきでないとする障害者団体の意見は平行線をたどっています。

（事務局より）検討会で気づいたことですが、構成員は耳鼻咽喉科の専門家や、リハビリテーションセンターの要職者でしたが、情報保障への配慮が身につけていない印象がありました。

議事録をとる速記会社も、情報保障の全体投影をするPC要約筆記者もマイクを通した声が頼りであるにもかかわらず、マイクを使わないで小声で発言をはじめたり、発言自体が明瞭でなかったりなど、現場に配置されていたPC要約筆記者や、事務方が常に動揺している状態でしたが、これに対してメンバーの方はあまり疑問をもたれないようでした。

厚生労働省、文部科学省あて要望（9月17日）

全要研との定期協議会で決まった要請行動についてご報告します。

前号でもご案内しましたが、全要研（全国要約筆記問題研究会）と全難聴は、運動の両輪として活動しています。難聴者の社会参加が進むための要望行動をともに行っています。

具体的には、難聴学生の学校での情報保障を拡充させること。難聴の就業者への助成に手話のみでなく、文字による情報保障である要約筆記の対応を促すことなどです。

9月17日に、厚生労働省障害者雇用対策課および、文部科学省高等教育局に対し、新谷理事長と全要研三宅理事長が要望書を提出しました。

厚生労働省に対して：

- 障害者の雇用の促進や雇用の継続を図ることを目的に、高齢・障害・求職者雇用支援機構が助成している制度の中の「聴覚障害」の情報保障が「手話通訳担当者の委嘱助成金」

だけになっていることに対し、要約筆記者への委嘱も加えるよう求める。

文部科学省に対して：

- 高等教育、特に通信教育で学ぶ学生への情報保障対応が、学校（大学）によってバラつきがあるにもかかわらず、健聴学生と同様に入学金を収めている現状に対し、講義保障を適切にするように指導を求める。

厚生労働省には、昨年の9月に同様の要望書を提出しています。【全難聴便り No.64 号】

助成元の雇用支援機構は厚労省が許可を出せば助成すると言っています。問題は厚労省ですが、残念ながらこの1年に2回担当課長が替わっていて要望の引き継ぎがなされていません。

粘り強く要望行動を行っていきます。

第13回障害者政策委員会開催（9月1日）

内閣府に設置された障害者政策委員会では、障害者基本法に関する審議策定が行なわれています。

9月1日に新しいメンバーによる障害者政策委員会として最初の会が開催されました。前回4月28日の会合から4ヶ月以上の空白期間がありました。

第12回までの30人の委員は2年の任期を5月で終え、その中の半数が入れ替わり、28名の委員で第13回が開催されました。

初回は新規の委員の挨拶も含め、基本方針策定への意見が出されました。

その中で複数の委員から、当事者の意見を反映する委員会に精神障害、知的障害当事者が不在である。委員規定の30名まで2名余裕があるので、当事者の追加任命をするようにとの意見が出されました。

石川准委員長からこれら委員の意見を尊重するよう求められた内閣府武川統括官は、「人選及び任命は、人事行為につき個別に説明は難しい。前回の委員会から発令まで時間がかかっている、一刻も早く審議を進めなければいけない。当事者の方は個別に来ていただいて意見を聞くことはできるので、この形です承してほしい」と回答しました。

委員からは、海外で行なわれている権利条約締約国会議でも、知的障害者委員が入っている現状があると指摘がありました。この件については、石川委員長預かりとなっています。

根本的なところでの所轄官庁と委員の意思疎通がなされていない印象です。今後の推移に注目です。

その後、9月22日に第14回、9月29日に第15回と開催予定が矢継ぎ早に発表されました。基本方針の閣議決定を政府が急いでいるのがまざまざとわかります。

今年も、国際福祉機器展 H.C.R.2014 が開催されます。

福祉に関するものソフトからハードまで幅広い展示が行なわれます。今年は高齢者の料理講座や、旅の便利グッズなど高齢者向け出展が多い印象です。東京有明のビッグサイトにて10月1日から3日まで開催されます。お近くの方はぜひご参加ください。

📌 理事及び専門部長の動き（9/1～9/30）

- 9月2日 厚労省認定係ヒアリング（新谷）
- 9月4日 障害者放送協議会著作権委員会（川井）
- 9月8日 時宝光学新聞社取材（新谷）
- 9月9日 人工内耳及び関連団体挨拶回り（新谷、佐野）
- 9月9日 ビデオコンテンツ字幕のガイドライン作成のための会議（小川部長）
- 9月12日 障害者放送協議会・文化庁意見交換会（川井）
- 9月13日～15日 全国要約筆記指導者養成講習会西会場第2クール（宇田川部長・藤谷副部長）
- 9月17日 厚労省要望書提出・全要研（新谷）
- 9月17日 文科省要望書提出・全要研（新谷）
- 9月21日 要約筆記者認定事業試験委員会（新谷、宇田川部長）
- 9月22日 きょうされん第37回全国大会式典・神奈川（新谷）
- 9月27日～28日 全難聴・全要研東北ブロック大会（藤谷副部長）
- 9月27日～28日 全国要約筆記指導者養成講習会東会場第3クール（佐野・宇田川部長）
- 9月30日 全社協障害者の高齢化に関する課題検討委員会（大石高年部相談役代理出席）
- 9月30日 JDF 幹事会（新谷）

📌 事務局報告

- 9月1日 障害者政策委員会傍聴
- 9月2日 厚労省認定係ヒアリング傍聴
- 9月9日 人工内耳及び関連団体挨拶回り
- 9月17日 厚労省、文科省要望書提出
- 9月29日 全難聴だより No. 76 発行
《予定》
- 10月8日 要約筆記者認定試験説明会（東日本）
- 10月8日 聴覚障害者中央拡大会議
- 10月14日 JDF 幹事会
- 10月22日 高松市第5回口頭弁論及び報告集会
- 10月25日～27日 第20回全難聴福祉大会 in 三重（四日市市）
- 10月31日 全難聴だより No. 77 発行予定

全難聴出版書籍「冬芽を想う」について

難聴者中途失聴者及び、その支援者に関する情報を広く知っていただくためにこの体験談集は発行されました。

加盟協会の会報の記事の中から抜粋したものをメインに構成された本です。作成の際に、会報執筆者の皆様には無償での転載ご許可をいただきました。そのため、250ページという書籍にもかかわらず1200円という価格で販売することができました。

現在加盟協会に販売をしていただいております。販売収益は加盟協会の活動に充たいただき、協会の活性化に役立ていただければ本望です。

なお、本書籍のカバーは、撥水加工なしの紙素材のままのものをあえて使いました。素材となる美しい絵手紙を活かす目的です。

万が一何らかの事情で、皆様の協会に在庫されている書籍のカバーが汚れた際は、新しいカバーの補充がありますので、事務局までお申し出ください。

（事務局）